

▼貸借対照表のチェックポイント

A社貸借対照表 (単位：百万円)							
資産	前々期	前期	当期	負債・純資産	前々期	前期	当期
現預金	40	45	① 30	買掛金	55	55	47
受取手形	5	5	5	支払手形	40	40	35
売掛金	20	20	30	未払費用	4	5	3
棚卸資産	34	35	40	仮受金	3	3	3
未収金	1	1	1	短期借入金	3	3	④ 3
仮払金	2	2	2	流動負債	105	106	③ 91
流動資産	102	108	③ 108	長期借入金	80	79	④ 83
建物・車両	100	95	90	固定負債	80	79	83
土地	50	50	50	負債合計	185	185	174
差入保証金	10	10	10	資本金	100	100	100
長期貸付金	3	3	3	利益剰余金	-20	-19	-13
固定資産	163	158	153	純資産合計	80	81	② 87
資産合計	265	266	261	負債・純資産合計	265	266	261

- ①資産の部に着目し、現預金が大きく減少していればヒアリングを行って要因を確認
- ②債務超過になっていないか、純資産をチェック。懸念材料があればヒアリングを行う
- ③流動比率を計算し、数値が大きく下がっていればヒアリングを行って要因を確認する
- ④借入金の状況についてヒアリングで確認する

また、借入先に社長やその他の役員の名前が挙がっていることがあります。役員借入金といって役員が企業に貸したお金のことで、これらはすぐに返済を迫られるものではないので、特段問題ないといえます。

その他、前期と比較して金額が大きく変動している勘定科目があればヒアリングを行い、その要因をしっかりと確認していきます。A社の場合、特段気になる勘定科目はなさそうです。

借入先や借入理由等も必ずヒアリングする

貸借対照表を確認する際に忘れてはならないのが「借入金」です。短期借入金と長期借入金(④)のいずれも確認するのはもちろん、借入先や借入理由等も確認します。A社の場合、長期借入金の金額が目立つため、借入理由等もヒアリングします。特に、自

貸借対照表&損益計算書の見方とヒアリングの方法

ここでは、貸借対照表と損益計算書を取り受けた際、どこに着目してヒアリングすればよいか解説します。

中小企業診断士 山根 孝一

① 貸借対照表の見方とヒアリングのポイント

取 引先から貸借対照表を取り受けた際には、全体を見渡してから個々の勘定科目に着目するのがポイントです。A社の貸借対照表を例に見ていきましょう。まず、資産の部に目を通しますが、その中で、現預金は最初にチェックします。企業の経営にとって大事なのはキャッシュです。いくら黒字でも支払いに足る現金がなければ資金がショートしますし、振り出した手形が不渡になれば倒産にもつながりかねません。現預金(①)が前期と比較して大きく減少しているようであれば、融資金の返済に懸念が発生します。業種にもよりますが、現預金は平均月商の1ヵ月分あることを目安とします。ただし、仮に1ヵ月分を上回っていても前期や前々期と比べて大きく下がっているのであれば、要因をヒアリング

することが必要でしょう。次に、純資産の部を見てみましょう。純資産は企業が保有する自己資本のことで、資本金やこれまでに積み立てた利益の累計額(利益剰余金)などが計上されます。純資産(②)がマイナスの場合「債務超過」と呼ばれ、金融機関としては債権保全策を検討しなければなりません。A社の場合は8700万円プラスとなっています。また、純資産はプラスだが利益剰余金がマイナスになっていけば「繰越損失」です。直近の数値を見て悪化傾向があれば注意が必要ですが、A社の場合、前期と当期いずれも良好化していますので大きな問題にはならないでしょう。

流動比率が下がった場合 要因を確認する

純資産については、取引先が債務超過になっていないかチェックします。内容を見て懸念事項があればヒアリングを行って状況を確認することが大切です。そして、勘定科目ごとのバランスを見ます。ここでは、流動資産と流動負債のバランス(③)をチェックしましょう。流動資産は、いまあるお金と1年以内に入ってくるお金の合計、流動負債は1年以内に出ていくお金です。両者を比較した場合、流動資産が大きいほうが健全です。「流動資産÷流動負債」で計算したものを流動比率といい、短期の安全性分析で使われます。安全性の目安は100%といわれていますが、この比率が前期と比べて大きく下がっていればヒアリングを行って要因を確認することも必要です。貸借対照表を取り受けた際には電卓を使って計算してみましょう。A社の場合、前々期は100%を下回っていましたが、直近2年は100%を上回っているのが問題ないといえるでしょう。